

スギ花粉症の治療法の一つにアレルギー免疫療法があります。アレルギー免疫療法はアレルギーの原因となっているアレルギーを少量から投与することで体をアレルギーに慣らし、アレルギー症状を和らげたり、日常生活に与える影響を改善するなどの効果が期待されます。これまでのスギ花粉症に対するアレルギー療法は皮下に注射する「皮下免疫療法」だけでしたが、2014年10月、スギ花粉の免疫舌下療法の治療薬であるシダトレンが発売され、2015年11月に長期投薬が可能となり Y 耳鼻科さんでも2名に継続処方されておりますので、報告させていただきます。

**症例1 18才 男性 スギ花粉症にて2010~2013 春 オロパタジン・プラナルカスト処方あり**

2015.11.13 シダトレンスギ花粉舌下液 200JAU/ml 10ml 1瓶 1日1回 (11/13~11/19分) 7日間  
オロパタジン 5mg 2T 分2 7日分

**増量期**

※1回目、院内で滴下して30分経過観察。異常なかったため薬局来局。その後薬局にて服薬指導。  
オロパタジンは痒みが出た時に服用するよう処方

2015.11.18 シダトレンスギ花粉舌下液 2000JAU/ml 10ml 1瓶 1日1回 (11/20~11/26分) 7日間

**増量期**

問題なく服用できている

2015.11.25 シダトレンスギ花粉舌下液 2000JAU/ml パック 1ml 分1 1日1回 28日分  
(11.27~12.24分)

**維持期**

その後も口内炎や痒みはない。

2015.12.26 Do 以降継続服用し、現在に至る。途中1週間ほど飲み忘れあるかと思われる。  
前回3/15処方のため、今週来局予定。  
今シーズンは抗アレルギー薬の処方なし。

**症例2 14才 女児 スギ花粉症にて毎シーズン(2013~2015)アレロック・オノン継続処方あり  
ベースにアトピーあり。皮膚の痒みもあり時々皮膚科にてアレロック処方あり**

2015.12.11 シダトレンスギ花粉舌下液 200JAU/ml 10ml 1瓶 1日1回 (12/11~12/17分) 7日間

**増量期**

※1回目、院内で滴下して30分経過観察。異常なかったため薬局来局。その後薬局にて服薬指導。  
12/5にアレロック処方あり。痒みが出たら、シダトレン服用する前に飲むよう Dr より指示あり。  
患者さん：朝練があるので、夜服用してもいいですか？→薬剤師：はい。寝る前に服用しましょう。

2015.12.16 シダトレンスギ花粉舌下液 2000JAU/ml 10ml 1瓶 1日1回 (12/18~12/24分) 7日間

**増量期**

問題なく使えた。アレロックも飲む事なかった。服用忘れもなかった。

2015.12.22 シダトレンスギ花粉舌下液 2000JAU/ml パック 1ml 分1 1日1回 28日分  
ナシビン点鼻・点眼液 0.05% 10ml 鼻閉時 (12.25~H28.1.21 分)

維持期

シダトレンは問題なく使えている。風邪を引いてそこから鼻つまりになった。

2016.1.16 Do

2016.2.5 シダトレンスギ花粉舌下液 2000JAU/ml パック 1ml 分1 1日1回 28日分  
アレロック 2T・オノン 4Cp 分2 28日分 ←花粉症症状出た時用に念のため処方

2016.3.22 Do アレロック・オノン、花粉症症状あり服用  
飲み忘れなく、毎回お薬が無くなる前に来局。今週来局予定。

☆シダトレンの処方箋を受け付けましたら、処方医がシダトレンの舌下免疫療法の講習を修了した医師か、右記サイトにて確認が必要です。 [シダトレン登録医師確認窓口](#) [確認サイト](#)

適応：スギ花粉症と診断された成人及び12才以上の小児

服用期間：1日1回、少量から服用を初め、2週間は徐々に増量し、その後は決まった量を数年にわたり継続して服用。(3年以上が推奨される。)

初めての服用は、スギ花粉が飛散していない時期に医師の監督の元、行う必要がある。

→1回目、院内で滴下し30分様子を見、異常なければ来局して頂く。

## 服用量・服用スケジュール

1~7日目は青のシダトレン 200JAU/mL ボトルを、8~14日目は白のシダトレン 2,000JAU/mL ボトルを使用し、以下の表のプッシュ数の通り服用します。プッシュ数は日ごとに異なりますので注意してください。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
1週目 (200JAU/mL)	 1プッシュ	 1プッシュ	 2プッシュ	 2プッシュ	 3プッシュ	 4プッシュ	 5プッシュ
2週目 (2,000JAU/mL)	 1プッシュ	 1プッシュ	 2プッシュ	 2プッシュ	 3プッシュ	 4プッシュ	 5プッシュ

※1 プッシュ 0.2ml

服用方法：治療薬を舌の下に滴下し、2分間保持したあと、飲み込む。その後5分間はうがい・飲食は控える。  
スギ花粉が飛んでいない時期も含め、毎日服用する。



注意する事：服用する前後 2 時間は激しい運動、アルコール摂取、入浴などは避けるようにする。  
薬液が手についた場合、直ちに水で洗い流す。

期待できる効果：くしゃみ・鼻水・鼻つまりの改善。涙目・痒みの改善。アレルギー治療薬の減量。QOL の改善。

主な副作用：口の中の副作用（口内炎や舌の下の腫れ、口の中の腫れなど）。咽頭の痒み。耳の痒み。頭痛など

重大な副作用：ショック。アナフィラキシー。

保管：冷所（2～8℃）。小児の手の届かないところに保管する事。

※増量期のボトルは残薬が出るが、処方通りに使用後残薬は破棄する。

処方箋入力：シダトレン 200JAU/ml ボトル、2000JAU/ml ボトル-----内滴、2000JAU/ml パック-----内服

鳥居薬品 冊子「シダトレンを服用される患者さんへ」より抜粋引用

## Q&A

Q1 いつ始めるのが効果的か？

A1 飛散開始の少なくとも 3 か月以上前から開始するのが望ましい。関東以西では 11 月中の開始が望ましい。

Q2 治療禁忌の患者さんは？

A2 近いうちに妊娠を希望する患者。冠動脈狭窄などの心疾患でエピネフリン投与が危険な患者。高血圧でβ遮断薬を服用している患者さんについては薬の変更が必要。薬物でのコントロールが不良な喘息患者、重篤な免疫患者・免疫不全のある患者、がん治療中または再発の可能性がある患者。重篤な精神障害患者。

Q3 併用禁忌薬は？

A3 β遮断薬と内服ステロイド

β遮断薬-----万が一アナフィラキシー時に必要なβ刺激薬の作用を妨げる為。

内服ステロイド-----舌下免疫療法の効果自体を減弱させる可能性が高い。

鼻噴霧・点眼・吸入・軟膏などの局所製剤は OK。

Q4 忘れた場合は？、又は休薬時（発熱・入院や旅行等による長期）の対応は？

A4 《増量期》 前日の投与量（忘れた分）を服用。---スケジュールが 1 日遅れる。

《継続期》（カッコ内は維持期の期間がまだ 1 か月以内）

2 週間（1 週間）以内の休薬はそのままの維持量で再開する。2 週間（1 週間）を越えて 1 か月以内の休薬はシダトレンを持参のうえで早めに受診して頂き、院内で投与し大丈夫か確認し、以降は自宅で維持量で再開する。1 か月以上の休薬は増量期から再度行う。

**ゆたクリニック「スギ花粉症の舌下免疫療法 108 のレシピ---これまでの臨床経験に基づくハウツーガイド」より抜粋引用**

**注：レシピとは Q&A の事です。**

最後に

舌下免疫療法は全ての患者さんに効果が期待できるわけではありません。又、治療年数も長く、毎日の服用が必要となります。根治に近い例も数割以下ですが、1 年目でも効果は少しあるようです。2 年目で増強すると言われています。3 年以上の治療で効果が落ち着くと考えられています。患者さんに副作用が少なく、より継続して頂けるよう、舌下免疫療法の理解を深め、患者さんの治療の助けとなるよう努めていきたいです。